

序

解剖学は理学療法・作業療法にとって必須のものであることは、この分野の臨床家からよく聞く言葉である。また、解剖学は最も身近な自分の体を対象としているので、興味をもつことは自然なことに思われる。しかし、学習するとなると、覚えることが多すぎて好きになれない、とも聞く。確かに、教科書などには数多くの解剖学用語がひしめき合うようにちりばめられている。これらを最初から順番に覚えようとする、いやになる人がいても不思議ではない。そこで、本書では以下のようないくつかの工夫を施すことにより、解剖学を確実に理解できるよう編集を行った。

第一に、記述を理学療法学、作業療法学に本当に必要な内容に限定した。そのため執筆者には、実際に理学療法学・作業療法学の教育に携わっている教員を中心にお願いした。執筆者は臨床や国家試験に精通して、何が重要かよく理解して執筆されているため、本書は一般の解剖学参考書の内容とは一線を画し、運動器と神経系に重点が置かれたものとなっている。

第二に、内容の重要度を明確にした記述とした。文章を簡潔にし、最重要語句は赤文字に、知っておきたい重要な語句は太字にした。各項目の冒頭に概略図とpointボックスを設けて内容をまとめ、重要項目が列挙できるものについては、その数を明記して項目を整理した。

第三に、単に読むだけでなく能動的な動作によって学習する方式をとった。本文中の赤文字は赤シートを利用して隠すことができるため、能動的な思考を伴った学習を可能とする。また、別冊の問題集ではシンプルな正・誤問題と国家試験様式の複雑な問題を解くことにより、知識の積極的な確認をすることができる。ほかにも、図を見ただけで内容を理解できるように工夫して充実をはかった。

本書が通常の試験や国家試験のまとめに使われるだけでなく、解剖学を通して医療人としてチーム医療でのコミュニケーションの基盤形成に役立てられることを祈っている。

2008年2月

編者を代表して

井上 馨